

# 平成22年度 学校経営の改革方針

学校名 三重県立名張西高等学校

## I 目指す学校像

夢・感動の空間＝名西（学校経営のキャッチフレーズ）

### (1) 『共に学び合い、共に成長できる学校』… 学ぶ感動

教育活動全体を通して、生徒と教員、生徒と生徒、教員と教員とが、相互の信頼感の下に、学び合い、高め合えるような学校を目指します。

### (2) 『信頼感に満ちた進学校』… 夢実現の感動

知・徳・体のバランスがとれた、質の高い学びを求める生徒を育み、生徒の進路希望を実現する学校を目指します。

### (3) 『前向きな姿勢を持ち続ける学校』… 明るく集う感動

生徒、保護者、教職員、地域の方々すべてが、集えて良かったと感じることのできる、明るく元気に、常に前向きな姿勢を忘れない学校を目指します。

## II 現状と課題

創立25年目を迎える本校は、普通科・英語科・情報科の3つの学科があり、多様な教育機能を有する地域の進学校として、進学を目指す多くの生徒が学んでいます。創立以来、「個性伸張」「進取創造」「心身錬磨」を掲げ、その理念の具現化に努めています。生徒のほとんどが、明るく素直で学校の基本的なルールを大切にしており、部活動や学校行事等にも積極的に取り組み、まじめで前向きな学校生活を送っています。

しかしながら、近年は生徒数の減少に加え名張という東西に発達した鉄道の利便性により、名張市外への生徒の流出が続いており、高校入試においては英語科、情報科で定員割れが続いています。また、生徒の進学実績においては、四年制大学への進学者が6～7割に上るものの、国公立大学は10名前後で推移しており、関関同立大も10～20名程度です。産近甲龍大においては、ここ数年進学実績を伸ばしてきており、平成21年度入試では91名、平成22年度入試においても82名の生徒が合格をしました。

この現状に満足することなく、「さらなる高みを目指した進学指導」を実践することにより、地元の中学生が地元の高校で進路実現が図れるようにしていきます。当面、大学合格者数の目標値を現状の2倍程度に設定し、進路指導体制や教育課程を見直し、授業改善を図っていきます。

## III 中長期的な重点目標

※ 下線が今年度特に重点的に取り組む項目です。

- (ア) 「さらなる高みを目指した進学指導」を基本に据えて、国公立大学や難関私立大学への進学者数を増やします。
- (イ) 学習意欲を高め、主体的な学習者を育成するために授業改善に取り組みます。
- (ウ) 中学生やその保護者、地域に対しての広報活動を積極的に行い、志願者の増加につなげます。
- (エ) ゆめ21プラン（総合的な学習の時間）等を中心にキャリア教育の一層の充実を図り、生徒が主体的に自らの進路を切り拓くことができる力を育むとともに、希望大学への進学など進

路希望の実現を徹底的に支援します。

- (オ) 学ぶ生徒、働く職員、支える地域の方々すべての人々との対話を大切にし、本校の伝統である「生徒一人ひとりを大切にする」視点のもとに、一層の信頼関係の構築を目指します。
- (カ) 授業（教科指導）やHR活動及び生徒会活動や部活動等の場において、生徒の自主的・自律的な活動を支援します。
- (キ) 部活動は、「望ましい人間関係」や「生きる力」を育成する上で、また、学校を活性化する上でも大切な活動と位置づけ、その取り組みを重視します。
- (ク) 生活習慣の確立は、学力向上にとって大切であり、挨拶・服装・言葉遣い・時間厳守・掃除・遅刻などの生活指導を徹底します。
- (ケ) 英語教育の一層の充実を図り、姉妹校交流等の活動を推進するなど、国際感覚あふれる学風を一層広げます。
- (コ) 情報教育の充実及び校内情報インフラの一層の活用を図り、生徒も教員もICTリテラシーの向上を目指します。

## IV 本年度の行動計画

〔IV－1〕『共に学び合い、共に成長できる学校』の具現化のために

### (1学年)

- まずあいさつをすることから人間関係を築きます。(オ) (ク)
  - ・他人を思いやる姿勢を育みます。
  - ・お互いを認めあえる姿勢を育みます。
  - ・お互いの信頼関係を築きます。
- 生徒の平均家庭学習時間を90分以上確保させます。(イ)

### (2学年)

- 各クラスでの個人面談を各学期1回以上行います。(オ)
- 生徒との対話を、各学期2回以上行います。(イ) (オ)
- 生徒の平均家庭学習時間を最低120分以上確保させます。(イ)

### (3学年)

- 体育祭・文化祭など生徒会行事を、ルールを守って楽しみます。(イ) (カ)
- 各授業において生徒が自分で取り組む時間を設定します。(イ) (カ)

### (総務部)

- PTA役員会、各種委員会と協力し、保護者のPTA活動への参加意識を高めます。
- 積極的に国際交流を行い互いに理解しあう態度を養います。(ケ)

### (教務部)

- 各教科・学習指導委員会と連携しながら、授業内容の充実と授業力の向上に努め、「わかる授業の構築」に向けたサポート活動を行います。(イ)
  - ・授業公開や授業アンケート等をとおして授業のスキルアップを目指します。
  - ・授業規律を確立し、生徒が授業に集中できる環境を整えます。
  - ・新学習指導要領への対応を踏まえながら、教育課程の見直しを行います。

### (生徒指導部)

- 毎授業時間に校内巡視を行い、学習環境や生活環境の向上に努めます。
  - ・生徒が自らの所持品を責任持って管理できるようにし、盗難をなくします。
  - ・生徒がHRの消灯や清掃を自主的におこない、消灯・清掃・ロッカー・その他の清掃不備などを年間10回以下に減らします。
  - ・生徒がゴミの分別を正しく行い、リサイクルコーナーの不備を年間20回以下に減らします。

### (進路指導部)

- 進路情報誌「コンパス」を月1回以上発行し、紙面の形態や内容を工夫することにより、進路情報や進路指導の方針を生徒及び保護者に理解を促します。(エ)
- 教育実習生による講話「先輩に訊け」や保護者による講話「保護者職業メッセージ」を実施することで、将来の進路目標を具体的に考える機会とします。(エ)
- 第一志望に合格した生徒も、将来の自己実現に向けての勉学を継続させ、クラス全体でセンター試験に向けた取り組みを行います。(エ)

### (保健部)

- 特別支援教育において、担任、学年主任、教科担当、保護者と情報交換を行い、発達障がい支援員の協力も得ながら、本人の特性に適した現実的な進路指導、および生徒指導を検討します。(オ)
- ・特別支援教育推進委員会 年間5回以上
- ・特別支援対象生徒教科担当者会議 年間1回以上
- ・発達障がい支援員との協議 年間1回以上

### (人権・同和教育係)

- 教職員は人権研修に参加し、人権意識を高めます。また、教職員は生徒と共に人権LHRを充実させ、仲間づくりを大切にします。
- ・「1人1回以上」の校外研修参加を全教職員が達成します。
- ・全学年全クラスの公開人権LHRを実践します。
- ・生徒が前を向いて自分のことを考えられる人権LHRを展開します。

### (英語科)

- 資格試験対策(イ)
- ・英語科生徒は、原則年間1回以上英語検定を受検するよう指導します。
- ・英語科生徒は、原則年間1回以上GTECを受検するよう指導します。
- ・英語科の授業の中で、英検対策、GTEC対策を行います。
- ・生徒が自主的に学習できるよう、英検問題集の貸し出しを充実させます。
- 授業改善(イ)
- ・各学期3回以上、他教員の授業見学を行い、意見交換を行います。

### (情報科)

- 生徒と教員が一体となって、HR全員受検の検定に対して、全員合格に向けて取り組みます。(イ)
- ※HR全員受検の検定とは、
  - 1年生は情報技術検定3級とパソコン利用技術検定3級
  - 2年生はパソコン利用技術検定2級と情報技術検定2級
- 教職員向け研修を開きます(年2回、希望者のみ)。(コ)

## 【Ⅳ－２】『信頼感に満ちた進学校』具現化のために

### (1学年)

- 個人面談を充実させ、じっくりと話します。(ア)(エ)(カ)
- ・将来の目標の確立を進めます。
- ・主体的に学習に取り組む動機付けを進めます。

### (2学年)

- 3年次科目選択の際、個々の生徒の進路に合った選択ができるよう各自1回以上の面談を行います。(エ)
- 模擬試験の結果を踏まえた授業等を3回以上行います。(エ)
- 模擬試験の結果を踏まえ、成績不振者に対して個人面談等を3回以上実施します。(エ)

### (3 学年)

- 個別面談等を通して、5年後の自分を視野に入れた進路選択をすすめます。(ア) (エ)
- 休憩時間・SHR、清掃後などに担任が中心となり生徒との「小さな会話」を1年間続けます。(ア) (エ)
- 担任のみがクラスの生徒と係わるのではなく、学年の生徒を副担任を含め全教員が応援するという姿勢を共通認識として持ちます。(ア) (エ)
- 掲示板を利用し、タイムリーな情報を発信し続けます。(ア) (エ)
- 自習室を積極的に活用します。(ア) (エ)

### (総務部)

- 中学生を対象としたリーフレット、及び広報誌「JOIN US」の内容を充実させ、計画的に4回発行します。また「JOIN US」を直接届けることにより、中学校との連携を強め、情報交換を行います。(ウ)
- 保護者を対象としたPTA広報誌「彩光」を年2回発行します。(ウ)
- HP、レインボーメッセージ等のWebサイトの充実を図ります。(ウ)
- 職員を対象としたパソコン研修会を年2回以上おこない、全職員のスキルアップを図ります。(コ)

### (教務部)

- 生徒が進路希望を実現するための諸活動をサポートします。(エ)
  - ・担任・進路指導部と連携しながら、生徒が選択科目を決定する活動をサポートします。
  - ・より良い科目選択のあり方を研究します。
  - ・2学期期末考査後の3年生の学習指導について研究します。

### (進路指導部)

- 国公立大学へ20名以上、「関関同立」大学へ50名以上、「産近甲龍」大学へ150名以上の合格を目指します。(ア)
- 1・2・3学年と進路の連絡会を密にし、進路に関する共通理解のもと指導にあたります。(ア)
- 模試結果などの進路データをまとめ、学年会議や教科会での分析資料とします。(ア)
- 前期デイリー・後期デイリー・サマー・ウインターの各セミナーにおいて、各期間における出席状況をまとめ、HR担任と教科担任の連携のもと継続的な学習の指導にあたります。(ア)

### (英語科)

- 広報の充実(ウ)
  - ・英語科の学習内容・高校入試・進路先がわかり易い広報(リーフレット、JOIN US、ホームページ)にします。
  - ・本校ホームページ内の英語科の内容を毎月更新し、魅力的なものにします。
- 小学校、中学校とのつながり(ウ)
  - ・英語科卒業生の進路先、英語科在校生の現在の様子等を中学校へ報告します。
  - ・小学校、中学校への出前授業を行います。
- 進路指導(ア)
  - ・各科目で、小テストを計画的、継続的に実施し、基礎学力を養います。
  - ・全学年において、センター試験を意識した授業を行います。
  - ・バラエティー豊かな内容のセミナーを開講し、進学を見据えた学習を支援します。
  - ・英語科在校生を対象とした英語科卒業生講話を実施し、進学に対する意識を高めます。

### (情報科)

- 教員が、広報活動を充実していきます。(ウ)
  - ・西高Webサイトの更新を頻繁にします(月2回以上)。
  - ・課題研究や実習などの成果を、文化祭やWebサイト等で公開します。
  - ・教員が、地域との関わりのある取り組みを見直し、充実させます。
- センター試験科目「情報関係基礎」対策を充実させます。(ア)

- ・サマーセミナー、ウィンターセミナーなどの補習を行います。
- ・自主学習をできるように過去問等のプリントやファイルを充実させます。

### 〔Ⅳ－３〕『前向きな姿勢を持ち続ける学校』具現化のために

#### （１学年）

- なんでも相談できる雰囲気をつくります。（全体）（エ）（オ）（カ）
  - ・チャレンジする心を育みます。
  - ・規則正しい生活習慣の動機付けを行います。
  - ・家庭訪問や学級通信などの発行を行います。

#### （２学年）

- 遅刻、早退、欠席の理由と生徒の心身状態を把握し適切に指導するとともに、無断遅刻・早退・欠席を０とします。（ク）
- 生徒の服装・頭髪の変化等を察知することで的確な指導を行い、同じ指導を学期内に二度とされないようにします。（ク）
- 集会等での生徒の５分前集合完了が、各学期３回以上できるように指導します。（ク）

#### （３学年）

- １年間の皆出席数、１００名を目指します。（１年次８８名。２年次９５名。今年度も表彰式を行う。）（ク）
- 定期考査・模擬試験前に机の中のをロッカーに移すだけでなく、資料の取捨選択をさせ、ロッカーの中も整理整頓させます。（ク）
- 生徒を「よりよい大人」として社会に送り出すために、安全安心な環境を維持する努力と、危険を招かない言動・服装を心がけるようアピールし続けます。（ク）

#### （総務部）

- 学校説明会、各種式典で生徒が主体的に企画運営に関わる機会を作ります。（オ）
- 「JOIN US」を中心とした中学校への情報発信に生徒が積極的に関わる機会を作ります。（オ）
- 各種行事の中に校歌斉唱の機会を設け、生徒の愛校心を高めます。（オ）

#### （教務部）

- 生徒が自主的に学習し、知識を高めていくとともに、豊かな情操を身につけていく活動を推進します。（イ）
  - ・生徒の学習意欲を高めるための環境整備を行います。
  - ・図書委員と協力しながら、生徒に読書活動を勧めていきます。各学期２回程度読書会を行います。
  - ・生徒・教員が積極的に図書館を利用し、読書・調べ学習が行われます。
  - ・国語科と連携して、読書感想文コンクールに積極的に参加します。

#### （生徒指導部）

- 生徒の意見を取り入れた生徒会活動が運営できるようサポートします。（カ）
- 部活動の加入者数を増やし、活動実績を伸ばします。（キ）
- 毎朝の登校指導を通じて、なるべく多くの生徒に声かけをおこないます。（ク）
- 生徒が場に応じた行動が取れるよう、教師は授業・SHR・学年集会など様々な機会を通じて啓発をおこないます。（ク）

#### （保健部）

- 保健室来室時のマナーと授業担当者への生徒本人からの連絡を徹底させることで、安易な保健室利用をさせず、授業に出るように指導します。（ク）
  - ・保健日より年間６回以上発行
- 教育相談係や教育相談専門員による相談活動を積極的に行い、多様な悩みを持った生徒に対する支援を行います。

- ・こころの休日 年間6回以上発行
- ・生徒対象こころの健康講話 各学年 年間1回以上

○生徒の健康推進のために、はしかの予防接種率90%以上を目指します。

#### (人権・同和教育係)

○教職員は日々の教育活動そのものが人権教育であるという意識を持ちます。また、教職員は差別を許さない態度で生徒に接します。

- ・時と場に応じた適切な指導を心掛けます。
- ・失敗を恐れず、熱のある教育活動を実践します。

#### (英語科)

○英語科行事の充実(キ)

- ・English Seminar、Speech Contest 等に向けての準備を授業内外で行い、さらに充実したものにします。
- ・英語科行事において、生徒と教員が協力して準備、進行を行います。
- ・英語科生徒は全員、英語関係のコンテストに年間1回以上参加するよう指導し、準備を支援します。
- ・英語科新聞を年間6回以上発行し、英語科生徒同士の情報交換を行います。
- ・学年を超えた英語科行事を行い、英語科生徒同士の縦のつながりを作ります。

#### (情報科)

○国家試験(基本情報技術者試験、ITパスポート試験、危険物取扱者試験)に挑戦させ、合格を目指し取り組みます。(イ)

- ・国家試験対策の補習「情報スペシャル」を更に充実していきます。
- ・自主学习をできるように過去問等のプリントやファイルを充実させます。